話の発端

For Excellent（研究者、技術者の育成）とFor All（国民全体への教養）について、政策と現場で食い違いが起きている

今と昔の方向性の違い（昔は上昇していたのは国と現場の乖離がなかったから）

が、言えたらいいな！

◆国の政策と現場の乖離

現場…For All

国…For Excellent

という乖離から生じる不都合

　=政策の効果がみられない。

科学技術者を増やそうとしているのに、割合的に横ばい（要確認）←PP候補

中教審からはFor Allの方向性が読み取れる。だから指導要領もそうなってるし、現場も。

　しかし政策がFor Excellentを意図している。

　だからFor Allに悪影響を与えているのではないか。←RP候補（PPの原因）

乖離⇒ｐｐ、への根拠必要。海外比較。

◇昔は研究者が増えていた。それは国と現場が乖離していなかったから（要確認）

◇政策やるだけやって、結果見てないのではないか。政策評価は？

◆◆調べること◆◆

①国の政策がFor Excellentにしていることへの証明←班の解釈で　みお、みさき

②現場（学習指導要領）がFor Allを要求していることへの証明←班の解釈で　さえ、ゆう

③この乖離が悪影響を及ぼすことへの証明（研究者が減っているとか）

・海外比較

・日本の歴史をさかのぼって研究者が多かった時代に政策と現場の乖離がなかった証明

④研究者、技術者の割合の推移　のがわ、しほ

金曜日までに、①②④を調べてくる。

90年代以降、最近すぎないものを。（反映されてないから）